

設計開発における 技術の可視化と設計改革の方法論

- ナレッジの体系化・技術伝承、設計成果物管理/設計標準化/高度化の勘所 -

●日 時● 2018年 6月19日(火) 10:30~16:30

●会 場● 東京・麹町『企業研究会セミナールーム』

●講 師● 株式会社プリベクト 代表取締役 北山 一真 氏

◆開催にあたって

多くの企業では多数のベテラン技術者が定年退職を迎えようとしています。そのため、ベテラン技術者のノウハウを可視化し、伝承・活用することが重要な経営課題となっています。

しかし実際には『属人的な設計から脱却できない』『ベテランのノウハウを共有できない』といった問題が発生しており、対応が求められています。また、多忙な技術者には技術伝承の取り組みに割く時間も限られており、効率的な取り組みを行わねばなりません。

さらにノウハウは洗い出すだけでは意味がなく、活用して初めて効果が得られます。ノウハウは活用することと、改定することが最も重要となるのです。

本講義では、技術者が現業を持ちながら、限り有る時間でノウハウの可視化を行うためのポイントを順次解説します。また、ナレッジは技術伝承させるだけでなく、設計業務改革に有効な情報です。ナレッジを設計標準化/高度化、設計システムの構築への活用についても解説します。

《詳細は裏面をご覧ください》

●受講料● 1名(税込み、資料、昼食代含む)

正会員	43,200円	本体価格 40,000円
一般	47,520円	本体価格 44,000円

- 正会員の登録の有無など、よくあるご質問(FAQ)は、当会ホームページでご確認いただけます。
(〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕)
- お申込み後(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- お申込み後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願い致します。
- 最少催行人数に満たない場合ほか、諸般の事情により開催を中止させていただく場合もございます。
- FAXでお申込の際、「0(ゼロ)発信のFAX機」をご使用の場合は、必ず「0」を押してから、番号入力をお願い致します。(別番号への誤送信にご注意ください。)

一般社団法人企業研究会

担当：福田 E-mail fukuda@bri.or.jp

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-7-2 麹 M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3516 FAX 03-5215-0951

申込方法 当会ホームページよりお申込みください。 <https://www.bri.or.jp>

企業研究会セミナー

181339-1011(※)		2018.6.19	
<input type="button" value="申込書"/> 設計開発における技術の可視化と設計改革の方法論			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
TEL		FAX	
ご氏名	フリガナ	所属 役職	
Eメール			

【個人情報の利用目的】お客様の個人情報は、お申込受付後のご連絡やご請求等を行うため、また、ダイレクトメールの発送等、当会主催の各種事業をご案内するために利用させていただきます。

設計開発における技術の可視化と設計改革の方法論

株式会社プリベクト 代表取締役 北山 一真 氏

- 【経歴】 IT 系コンサルティング会社、製造業系コンサルティング会社ディレクターを経て、2010 年にプリベクトを設立。競争力ある製品/もうかる製品の実現のため、設計と原価の融合をコンセプトにした企業変革に取り組む。業務改革の企画/実行、IT 導入まで一貫通貫で企業変革の実現を支援。設計高度化、設計ナレッジマネジメント、製品開発マネジメント、原価企画、原価見積、開発購買、ライフサイクルコストニング、意思決定管理会計、BOM、3D-CAD、PLM などのコンサルティングを手がける。
- 【著書・執筆】『赤字製品をやめたら、もっと赤字が増えた！-儲かる製品を実現するコストマネジメント-』（日刊工業新聞社）、『プロフィットブル・デザイン iPhone がもうかる本当の理由』（日経 BP 社）

●プログラム●

10:30

I. 技術伝承の難しさ

1. 技術とは何か？可視化するとはどういうことか？
2. 技術やノウハウを可視化するのはなぜ難しいのか？
3. ベテランに設計マニュアルを書いてもらうことが技術伝承なのか？

II. 技術の可視化

1. 様々な視点で設計や技術を可視化する
 - a. 業務フローの可視化
 - b. 設計フローの可視化
 - c. 技術諸元の可視化
 - d. 設計ノウハウの可視化
2. 技術の整備方法
 - a. 文書形式の整備方法
 - b. 表形式の整備方法
3. 忙しい技術者がどのように技術の可視化をおこなうのか？

昼食
休憩

III. 技術の伝承・活用・改定・定着

1. 設計マニュアルを整備しても活用できない理由
2. ナレッジの活用のポイント
3. ナレッジの改訂のポイント
4. ナレッジを活用する仕事をどのように定着させるか
5. 設計標準化/高度化のためのノウハウ活用方法

IV. ナレッジマネジメントシステムのポイント

1. 設計成果物システムのあるべき姿
2. 設計ナレッジシステムのあるべき姿

16:30

※講師とご同業の方は受講をお受けしかねる場合がございます。予めご了承ください。